

行かなくて済む市役所を目指せ!

デジタル化時代の市役所は、身近な支所を充実し、本庁舎の面積は最低限に

老朽化した市役所の建替え議論が佳境を迎えています。松戸市が専門家等に諮問した「松戸市庁舎整備検討委員会」で議論が進んでおり、9月1日に「中間答申」がまとめられ、市庁舎を移転建替えと現地建替えした場合の比較表と共に松戸市議会に設置された「公共施設再編検討特別委員会」に報告されました。比較表ではかかる費用は3案ともほぼ変わらず、かかる期間は移転建替えが最も早い事が示されました。

私はこの議論が始まる当初から財政負担を軽減させるための基金の設置と、マツモトキヨシ創業者でもある故・松本清市長時代に「身近な市役所」の理念のもと市内8箇所に整備された支所の歴史的意義を高く評価し、行政のデジタル化(DX)が進む未来を見据えて『支所を充実、本庁舎は最低限の面積で』と政策提言を行ってきました。

市立病院建て替えの時と同様に、移転か現地か、という単純に場所がどこかの議論ばかりでなく、新しい市役所が出来ることで市民にどんな新しい価値が提供されるかが大切です。

私が思い描く未来の行政サービスは、身近な支所や学校・地域施設等を充実させ徒歩圏内で全てが完結できる「行かなくて済む市役所」です。

これは、コロナ禍で再確認された市民みんなの共通の財産である「時間」を大切に作る街づくりです。

今回まとめられた中間答申と比較表の示す方向性はおおむね私の政策提言と軌を一にするものであり、一定の評価をするものです。

今後は、年度末までにまとめられる最終提言とその後の議論の中で、新しく建てる市役所の面積と費用をどこまでコンパクトにできるかが焦点になります。

市役所整備に係る候補地等別比較表(総括表) [計画予想面積 34,980㎡ベース]

評価項目	新拠点ゾーン 移転建て替え (A案)		現地建て替え			
			全部建て替え (B案)		議会棟・別館 再利用 (C案)	
	評価①	評価②	評価①	評価②	評価①	評価②
① 災害対応拠点の視点での評価	○	2.0	○	1.8	○	1.8
② まちづくりの視点での評価	○	2.3	△	1.0	△	1.0
③ 市民サービス等の視点での評価	○	1.8	○	1.8	○	1.7
④ 事業スケジュール等の視点での評価	○	2.3	○	1.8	○	1.8
⑤ 事業の実現性の視点での評価	◎	3.0	△	0.5	×	0.0
総合評価	(合計)	11.4		6.9		6.3
	(コメント)	執務スペース、駐車場の仮移転先の確保が不要であり、実現性が高い。災害対応拠点やまちづくり等の全視点において優れる。		執務スペース、駐車場の仮移転先の確保の目的が立たず、実現困難。事業スケジュールや賑わい向上への効果等において劣る。		執務スペース、駐車場の仮移転先の確保の目的が立たず、実現困難。事業スケジュールや賑わい向上への効果等において劣る。

⑥ 事業収支等の視点での評価

	新拠点ゾーン 移転建て替え (A案)	現地建て替え(全部建て替え) (B案)	現地建て替え(議会棟・別館再利用) (C案)
事業期間	約8年間	約13年間	約12.5年間
1.庁舎整備関連費	230.9億円	240.2億円	215.7億円
2.移転関連費	1.3億円	19.5億円	37.3億円
3.まちづくり基盤整備関連費	52.0億円	—	—
4.用地売却収入(建物含む)	-35.0億円	—	—
計	249.2億円	259.7億円	253.0億円

住み続けたくなる

Reboot Matsudo! 松戸に 未来への投資と責任

松戸市議会議員

全国若手議員の会 第26代会長



杉山よしひろ

2022(令和4)年秋号 九月議会報告 Matsudo City News Letter 2022年10月20日発行

後援会事務所開設のご案内

松戸市議会は第20期議員の任期満了が近づき、11月13日告示・11月20日投票日の日程で松戸市議会議員の改選が予定されております。

多くの皆様のご支援のおかげをもちまして、28歳での初当選以来、4期16年にわたり松戸市議会で活動をさせていただきました。

引き続き5期目を目指し今まで以上に広く活動をさせていただくため、新たに後援会事務所を開設させていただきます。お近くに起こしの際は、どうぞお気軽にお立ち寄りください。

新・後援会事務所:新松戸4-129
せきぐち第五ビル101
TEL:047-344-7841 FAX:047-344-7847



詳しくは、ホームページをご覧ください。

杉山よしひろ 検索



杉山よしひろプロフィール

全国若手議員の会 第26代会長 建設経済常任委員会 松戸市都市計画審議委員 自民党松戸市支部初代青年局長 会派「松政クラブ」
松戸市消防団 松戸自衛隊協力会松戸支部顧問 松戸青年会議所OB会 松戸スケートボード協会相談役 危機管理士®2級 など。

生年月日 昭和53年10月11日(松戸市生まれ)

新松戸南小学校・新松戸北中学校卒業
平成9年 千葉県立小金高等学校 卒業
平成14年 駒澤大学経済学部経済学科 卒業
平成16年 行政書士試験合格
平成16年~18年 渡辺博道 衆議院議員秘書

平成18年 松戸市議会議員 初当選 以降、4期連続当選
平成29年 明治大学公共政策大学院 ガバナンス研究科修了 公共政策修士
平成30年~令和元年 第68代松戸市議会 副議長
令和3年~令和4年 全国若手議員の会 第26代会長

「今こそ」新松戸駅に快速を止めよう!



毎回進捗をご報告させていただいている新松戸駅東側区画整理事業は、多くの地権者の皆様のご理解のおかげで順調に進んでおります。

9月議会でも関連する補正予算が可決され、土砂災害警戒区域に指定された部分への対応と駅前の歩行者空間を確保するための計画変更が行われます。この街づくりが完成すると、防災上の問題解消、新松戸駅西側ロータリーの渋滞緩和、羽田空港行きや他の地域へのバス路線の拡充など大きな効果が見込めます。

令和10年の完了を目指して進められる当計画と並行して検討されている、常磐線快速列車の新松戸駅停車に向けた松戸市とJRとの調査結果の一部も明らかにされています。

- ・快速停車は技術的に可能
- ・費用は約232億円、工期約10年

このような調査が行われ具体的な数字がでてきたのは初めてのことです。現在、常磐線快速列車は2027年に開業予定の羽田空港アクセス線への乗り入れを目指しており、これが実



管理が優良な分譲マンション認定制度創設を!

松戸市内にも多くの分譲マンションがあります。私も先日まで管理組合理事を務めました。松戸市内の多くの管理組合ではそれぞれ資産価値の保全のみならずコミュニティの維持のため懸命に活動されており、老朽化するマンションをどう保全してゆくかは大きな問題です。

2001年にマンション管理適正化法が施行され、2020年の改正によって本年4月から「管理計画認定制度」が創設されました。この制度の画期的な点は、分譲マンションの管理や長期修繕計画等の適正化の基準が国から示され、その計画の優良性を地方自治体が認定することができるようになった事です。

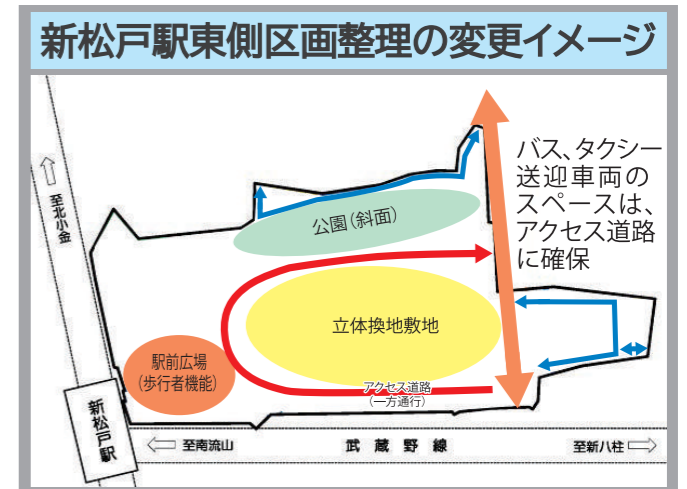
優良適正に管理保全されているマンションを認定され評価されることによって、より多くの管理組合で適正な管理と資産価値の保全が行われるきっかけになると期待されています。しかし、地方によっては分譲マンションがほとんどない自治体も多いため、この管理計画認定制度を導入するかどうかは各自治体の任意とされています。今議会で、この法改正への松戸市の対応を質問し、認定制度創設に向けて大変前向きな答弁がありました。

認定制度創設によって、一生懸命頑張る組合の皆様の活動が適正に評価され、市民全体の資産価値が保全されるよう引き続き取り組んでまいります。

現すると「電車でもバスでも空港直結のまちづくり」という新たな街の付加価値を生みます。

人口減少時代でも、JR武蔵野線は「東京メガループ」と位置づけられる成長路線で、沿線開発が活発に行われております。松戸市内で唯一JRが2路線交差する新松戸駅はターミナル駅として拡張効果が高い駅でもあります。新松戸駅に快速が停まる効果は、単に地元だけの利益ではなく、松戸市や首都圏全体の都市構造からも非常に重要です。だからこそ、松戸市だけの負担でなく、国や県、JRにも応分の負担を求めながら実現に向けて本腰を入れて交渉を始めなければなりません。

約50年前にこの地に駅が新設される当時から、快速停車は街の悲願であり、その実現によって街の価値を高めることは地元生まれの私の使命・ライフワークです。引き続き、市民の皆様のご理解をいただくため、全力で取り組んでまいります。



ISUT(アイサット)災害時情報集約支援チームの活用を!

ISUT: Information Support Teamとは、自治体が被災した際に錯綜しがちな災害情報の一元管理を手助けする内閣府が立ち上げた組織です。

東日本大震災や台風被害など大きな災害を繰り返し経験してきた中で、最も重要な災害対策は正確な情報に基づく即時判断と市民への情報提供です。

ISUTは被災した自治体に関する情報を即座に集約し、地図上にその情報を可視化できる形で落とし込み、専用webサイトで災害対応機関が共有する仕組みです。昨年の熱海で起きた大規模な土石流災害の現場でも実践投入され、本年度から本格運用がスタートすることになったものの、自治体がISUTの有効性に気づいていないことが多いとのことで、松戸市でもいざという時の為に有効活用できる準備を進めるよう質問し、非常に前向きな答弁がありました。

市民の命と暮らしを守る、防災対策にも全力で取り組みます。

- ISUTが作成する地図の **3つの特徴**
- ① 災害対応に必要な情報を集約
 - ② 情報を重ね合わせニーズに応じた地図を作成
 - ③ 専用Webサイト「ISUTサイト」で災害対応機関に共有